

住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告（吹上地区）

- 1 日 時 令和6年11月30日（土）10時から12時
 2 場 所 吹上公民館 ホール
 3 対象地区 吹上地区
 4 参加者 22人（地域関係者13人（民生委員、町内会、民間企業、福祉施設職員など）、
 八戸学院大学 学生6名、高齢者支援センター3名）

5 開催概要

(1) 話題提供

「八戸市の高齢者を取り巻く状況」

八戸市 福祉部 高齢福祉課 主査兼社会福祉士 柏崎 雄介

「地域包括ケアシステムの解説」

八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 講師 大木 えりか 氏

(2) ワークショップ（グループワーク）

テーマ 「吹上地区での生活について考える」

八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 講師 立石 真司 氏

- ・自己紹介カード（アイスブレイク）
- ・吹上地区における課題とそれをどのように解決していくか意見交換
- ・全体共有 各グループから検討した内容について発表

【主な意見】

| 項目 | 内容 |
|------------------|--|
| 公共施設 道路 交通 | <ul style="list-style-type: none"> ・公園の管理。 ・街灯が少ない、夜道が暗い。➡役所に相談。 ・公民館の駐車場が狭い、駐車台数が少ない。 ・駐車場が少ない。 ・道路や歩道が狭い、高い塀がある。➡子ども達の歩行や運転が危険。 ・坂が多く雪道が大変。自宅前の歩道の除雪に非協力的。 ・工事が多い。道路がデコボコ。 ・道路や交通の便が悪い。 ・小学校前の信号や中学校周辺で渋滞する、祭り期間に渋滞する。 ・道路を斜め横断する人が多い。 ・交通量が多いのに運転が荒い人が多い。 ・自動車が無いと移動や買い物が大変、自家用車が無いと高齢になった時の生活が難しい。 ➡小学生の下校時に中学校前の横断歩道で見守りが必要。 ➡白線の整備 ➡於本自動車学校の送迎時や寿楽荘の空き車輛を活用し、市内限定で送迎する。 |

| | |
|----------------------------|---|
| 町内会 住民同士の交 流 イベント | <ul style="list-style-type: none"> ・町内行事（総会、懇親会、草刈り等）の参加率の向上。 ・町内会加入者が少ない。班長が回ってくるのが早い。 ➡町内会活動の発信。SNSを活用し若者世代へ。会費の使われ方を公開。 ・加入しないで欲しいことの要求だけ多くなっている。 ・町内会加入者と非加入者のゴミ処理問題。ゴミが散らかっていても知らないふり。 ・アパート入居者の情報がわからない。町内会員の家庭内の事情がつかめない。 ・個人情報の関係で地域住民の情報を把握しづらい。 ・社会参加を望まない人、無関心な人が多くなったように感じる。イベントをしても集まらない。 ・地域交流の機会が減少。世代間交流、教育機関との交流がない。 ・地域の困りごとを学生が知らない。 ➡学校行事の周知。学生主体の移動販売。高齢者・子ども食堂。東北の祭りを毎年サイクルで開催する。イベントなどで人を活用。 ・子どもが少ない、外で遊んでいない。 ➡地域の関係機関で情報共有を行う。 |
| 生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の一人暮らしが多い。一人暮らしの買い物が不安。雪片付けが大変。家族が市内にいない。 ➡長屋を建ててもらう。 ・一人暮らしの人は何をしているのか知りたい。 ・老々介護の家庭が多い。 ・民生委員が誰かわかっていない。 ・認知症の方が通報されるが、地域で生活している。また、通報され地域から除外される。 ・障害のある方のゴミ出し。 ・雪かきや買い物、ゴミ出しが大変。 ➡ボランティアの活用。小売店を増やす。惣菜の自販機設置。デイサービスで夕食持ち帰り。 ・自宅で死にたい。地域医療。病院受診が大変。総合的に診察できる医師が少ない。 ➡最新の情報を知ることができる仕組み作り。 ・銭湯が少ない、遠い。 ・出かける場所、集まる場所がない。映画館がない。 |
| 空き家 | <ul style="list-style-type: none"> ・空き家が増えており、管理をどうしていくか。 ・隣家の雑草や庭木の管理がなされていない。 ➡戸建てを市が管理し、市営住宅として活用。 ➡ハウスメーカーが買い取り活用。 |